

都市における「アジール」の建築的可能性についての考察

— アジールを生成する都市エレメントの空間分析 —

A Study of the Architectural Potential of "Asyl" in Cities

— Analysis of the space of urban elements that generate Asyl —

○林深音<sup>1</sup>, 田所辰之助<sup>2</sup>

Mio Hayashi<sup>1</sup>, Shinnosuke Tadokoro<sup>2</sup>

Abstract: This study focuses on the concept of "agyl," which is sometimes defined as a place of refuge, and through investigations into sociology and anthropology as well as architecture, we will clarify the characteristics of the architectural space of an agile and the need for an agile in the modern age. Whenever people are in distress or misfortune, the "imagination," as a social "agile," has been a "refuge" for human beings. It is the role of architecture and space to stir up and support this imagination.

1. はじめに

1-1. 研究背景

本研究では、避難所と定義されることもある「アジール」の概念に焦点を当て、建築学のみならず社会学や人類学の分野への調査を通し、アジールの建築的な空間の特徴や現代におけるアジールの必要性について示していきたい。

現代の日本には、物理的に豊かな世の流れに身を任せてしまい、自分自身の心と向き合う時間が減っているという社会的な問題がある。このような現状を踏まえ、元来の人間にとって必要不可欠であった「裸形の概念と向き合う場」つまり自分の感情に正直に向き合うといった場の回復やその様な感情を許容してくれる誰もが平等に与えられているはずである逃げ場的な空間の再生が現代の都市には必要なのではないだろうかと考えた。そこで、人間の奥内ですっと希求されてきているにもかかわらず近代化によって消失したアジール、特にその建築的また空間的特徴に焦点を当て、その再興について考えたくこのテーマに着手した。

1-2. 研究の位置付け

これまで、アジールは「概念」として様々な研究分野において定義され、都市や空間について深く言及されているのにも関わらず、都市や建築の分野に特化した研究はあまり行われていない。また建築的提案においても機能的な役割としてのアジールは多く用いられるが、アジールの空間的な特徴に着目したものはあまり見られず、空間としてのアジールを追求する試みには一定の価値があると見込める。

1-3. 研究目的

アジールの空間的特徴や都市における位置付けを建築的な視点から明らかにすることが本研究の目的であ

る。その中でも、本研究では都市におけるアジールに着目し、アジールと認識される都市的エレメントの空間的特徴を探る。

2. 既往研究の流れ

アジール研究の第一人者であるオルトヴァン・ヘンスラー Ortwin Henssler によると、「アジールは、ひとりの人間が、特定の空間や人間ないし時間と関係することによって持続的あるいは一時的に不可侵なものとなる、その拘束力をそなえた形態」と定義している。ヘンスラーは、(a)宗教的・魔術的段階 (b)実利主義的段階 (c)退化と終末の段階の三段階からアジールは形成されるようになり、やがてアジールの諸形態が(d)場所的アジール(e)時間的アジール(f)人格的アジールの3つに分類されると著述している。また日本のアジール研究者である夏目琢史によるとアジールは「逃避」だけでなくその後の「気付き」が行われることによってアジールとなると示唆している。

研究分野	アジールの定義	代表的な研究、研究者
西洋史	避難所, フライング, 平和領域	O・ヘンスラー 吉田泰, 池津哲範
文学	聖域, 非日常, ハレの日	清水良典, 北川扶生子
社会学	アライサム	奥井智之
民俗学	ユートピア, 神隠し	柳田国男, 平泉澄, 新谷尚紀 宮田登
日本史	無縁	網野善彦
日本中世史	無所有, マージナルマン (境界人)	保立道久, 村井章介
宗教学	身近なもの(与資本主義)	中沢新一
文化人類学	タブー	竹中信常
政治学	庇護権(親密権), 内部の外部	島田征夫, 昔農英明, 小田博志

Table 1. 各分野におけるアジールの定義

その他にも Table1 に示したように、アジールという「概念」は、日本史においては無縁、海外ではアライサム、ユートピア、タブーなど様々な各国の研究分野において研究・定義され、広域な含意を有している。

1 : 日大理工・院 (前) 建築 2 : 日大理工・教員・建築

